



三武道合同鏡開き

1月13日(日)、武道館で市柔道連盟、市空手道連盟、市剣道連盟による合同の鏡開きと初稽古が行われました。今年で9回目を迎える合同による鏡開きには、幼児から高齢者まで約150人が参加しました。

各連盟の代表が、抱負を語り、今年一年の活躍を誓っていました。また各代表による演武が披露された後は、保護者の皆さんによるけんちんうどんやもちが振る舞われるなど、交流を深める一日となりました。



県内最優秀賞受賞！ 人権作文・原画コンテスト

今年度の全国中学生人権作文コンテスト県大会で、矢板中2年齋藤美南海さんの「男と女の違いつて？」と題した作文が最優秀賞を受賞しました。

また、栃木県子どもの人権ポスター原画コンテストで、乙畑小1年岡本華歩さんの「おもいやる やさしい心」、同じく乙畑小2年富川愛莉さんの「みんななかよし」と題したポスターが最優秀賞を受賞しました。



齋藤美南海さん 岡本華歩さん 富川愛莉さん

県の農業士に認定！

県の名誉農業士として、石塚健一さん(山苗代)が、農業士として佐藤喜久男さん(幸岡)が認定され、1月9日(水)、県の公館で平成24年度の県農業士などの認定式が行われました。

石塚健一さんは、矢板市において初めていちご栽培を導入し、矢板地域における栽培技術を確立するとともに、JA矢板いちご部会の初代部会長を務められました。平成12年度に農業士として認定され12年間活動されています。

佐藤喜久男さんは、利用権設定などによる農地集積を図ることにより規模を拡大し、水稻、麦、大豆、そばなどの作業受託による大規模土地利用型農業を実践されています。



石塚健一さんと妻の和子さん 佐藤喜久男さんと妻の祐子さん

祝 成人

1月13日(日)
平成25年新成人395人

成人式当日は、晴天に恵まれ多くの新成人が集まりました。実行委員会の皆さんを中心に式が進められ、「誓いのことば」や「市民憲章唱和」が行われました。

その後は、各中学校区に分かれて記念撮影。皆で再会を懐かしむ様子がとても印象的でした。



環境について考えよう

12月11日(火)、文化会館小ホールで、第22回矢板市子ども環境会議が開催されました。市内の各小中学校の児童生徒や、環境活動を行っている市民の方々が、身近な環境問題について話し合いました。この会議に参加した方からは、「各学校で行っている取り組みや子ども達の発想は素晴らしい。是非参考にしたい」、「大人も負けなようにしたい」などの声が聞こえました。

また、参加した佐藤隼平さん(片中3年)は、「改めて環境について考える良い機会だった。色々な世代の方と話せて分かるが多かった。」と話していました。



矢板和牛のおいしさ

12月14日(金)、アゴラヒルで矢板地区和牛部会の試食会が行われました。これは、矢板産の和牛を食べることにより、その味わいを知ってもらい、消費の拡大とブランド化の確立を図るとともに、地産地消の推進につなげることを目的として開催されています。この日は、関係者と会員約40人が参加しました。参加者は八木澤組合長などから、畜産を取り巻く現状などの話しに耳を傾けていました。

試食中は、食味や飼育方法について皆さん熱心に情報を交換していました。



この日、皆で試食した肉は、館ノ川で畜産を営む福田英一さんが育てた和牛でした。「愛を込めて育てることがおいしくなるポイント」と話してくれました。